［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価報告概要表

作成日 平成 20年 5月 13日

【評価実施概要】

事業所番号	1070400526
法人名	医療法人あづま会
事業所名	グループホームおおいど
所在地	伊勢崎市上諏訪町1766-8 （電　話）0270-40-6779

評価機関名	特定非営利活動法人　　群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年4月30日

【情報提供票より】（　20年　4 月　10 日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成14年　4 月　1 日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　　9　　人
職員数	14　　人	常勤 12人，非常勤 2人，常勤換算　7．9人

（2）建物概要

建物構造	木造一階建一部鉄骨　造り
	1 階建ての　　1 階　～　　1 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	60,000　　円		その他の経費（月額）	25,000
敷　　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	有		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日900円			

（4）利用者の概要（　　月　　日現在）

利用者人数		9 名	男性	7 名	女性　　2 名
要介護1		2　　名	要介護2	2　　名	
要介護3		2　　名	要介護4	1　　名	
要介護5		2　　名	要支援2	名	
年齢	平均	83.3 歳	最低	71 歳	最高　　93 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	大井戸診療所・笛木外科胃腸科・老人保健施設アルボース

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム建物は、ガラス窓が大きく天井も高く明るく開放的である。中庭は新緑がまぶしく、自由に出入りできお茶が飲める場所となっており、快適な居住環境である。日々の暮らしの中で、職員は入居者から「教えていただく」という気持ちで接し、一人ひとりの力量を引き出すための取り組みがされている。法人の医療機関や訪問看護師との連携は密にされており、急変時等24時間対応でき安心して暮らせるホームである。地域の人たちとの交流を大切にしながら、保育園の園児の訪問や、運動会へ出かけたりと日常的に交流が行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

外部評価の結果は、運営推進会議や職場会議で報告されている。前回の改善課題の「介護計画の見直し」は、ケア会議で問題点を口頭で出し合っているが、介護計画書への記載がされていない。また、状態の大きな変化に対しては見直しているが、変化がなくても職員で共有しサービス提供できるよう介護計画の見直しを記録に残し、介護計画の遂行状況、効果について評価していき、より良いケアに結びつけていくことを期待したい。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

評価を行う意義を、理事長、管理者、職員は理解している。管理者が原案を作り、全職員が確認し、意見を出し合い作成し、理事長が確認している。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議の構成メンバーは、区長、民生委員、家族、保育園園長、介護保険課職員、法人関係者、ホーム管理者、職員である。家族は常に5～6名が参加している。会議では、ホームから行事予定、入居者の状況、活動報告、評価の報告、ヒヤリハット報告をして意見交換している。「回覧板に、グループホームの記事を載せて見てはどうか」との意見を、現在検討している。また、近隣保育園の園長に会議に参加して頂き、園児との交流を深め、サービスの向上に努めている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

契約時に、相談、苦情受付窓口の説明をしている。職員は、面会時や行事に参加した時、意見を聞いている。また、家族からアンケートをとり意見を出しやすい工夫をしている。「もっと果物を食べさせてほしい」、「骨が弱くなってしまうので牛乳を飲ませてほしい」との要望が出され、職場会議で検討されている。家族の不安に対して、入居者の食事の状況を知ってもらうため献立表を家族に渡すことを検討していただきたい。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

毎日の散歩、地元の道路清掃への参加、お祭り等の行事に参加するなかで、地域の人達と話をし交流を深めたり、ホームを知ってもらう努力をしている。また、「さくら新聞」を配ったり、緑化フェアへの参加（パンジーの育成）をしたり、ボランティアや学生の体験実習等も受け入れたり、近隣の保育園児の訪問がある等、積極的に交流に努めている。運営推進会議の意見で、回覧板にグループホームの記事を載せて、ホームを知ってもらうことを検討中であり、さらに地域の人たちとの理解と交流がさらに深まるよう努力している。

2. 評 価 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成14年開設時に、職員全員で、その人にあったケアの開拓、その人の有する能力に応じ日常生活ができるよう、生活能力の維持向上を盛り込んだ理念を作り上げている。しかし、その後の見直しはしていない。	○	地域密着型サービスの役割を反映した理念を、今後全職員で作り上げていくことに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、全職員の目が自然にとまる勤務表の余白の部分に、理念に基づいた実践に向けた言葉を意識的に記載し、理念に立ちかえり振り返りを行い、ケアに活かしている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎日の散歩で、近隣の人達と気軽に声をかけあっている。地元の道路清掃は、時間が早いので現在は職員が参加している。近隣保育園児の訪問や運動会の見学、地域のお祭りや催しものに参加したり、社会復帰のためのボランティア、学生ボランティアの受け入れ等地元の人々との交流に努めている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義や目的を全職員に伝え、管理者が原案を作り、全職員が原案を確認し意見を出し合い作成している。その後、理事長が確認している。昨年の外部評価の結果も職員に報告し、介護計画の見直し等改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームから行事予定、入居者の状況、活動状況、ひやりはっと報告、職員の仕事ぶり等を報告し、構成員の家族からは要望を話してもらっている。会議での「回覧板にホーム の記事を掲載したらどうか」という意見を検討したり、近隣保育園の園長に会議に参加して頂き、園児との交流を深めたりサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者には、ホーム新聞「さくら新聞」を渡しホームの状況を知っていただいている。そうしたなかで、地域包括支援センターに「高齢者虐待について」や「地域密着型サービスについて」の話をしてもらっている。また、緑化フェアへの参加（パンジーの育成管理）も行っている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回郵送にて、全入居者の家族に生活の様子や健康状態を報告している。また、家族の面会時にもその都度話をしている。金銭管理は、家族より金銭を預かり、使った金額は領収書により報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、外部の相談・苦情受付窓口について説明をしている。また、面会時や行事の参加時に意見を聞いたり、家族からアンケートをとっている。家族から「もっとくだものを食べさせて欲しい」「骨が弱くなってしまうので、牛乳を飲ませて欲しい」 と要望があり、これらの要望はミーティングで話し合い献立に反映させている。	○	献立はホームに掲示してあるが、家族には渡っていないので、利用者の食事の状況を知ってもらうためにも、献立を家族に渡たしていただくことを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新入職員は、管理者と一緒に一人ひとりの入居者にあいさつをする等対応している。離職する場合は、家族には事前に話をしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体診療所主催の研修に、職員は出席している。研修参加後は報告書を提出、全職員で共有している。また、法人内でも定期的な勉強会を開催している。職員が希望する外部研修に自由に参加できる制度があるが、勤務状況等の関係もあり、まだ利用できていない。職員に認知症専門士や看護師がおり、技術やアドバイスを働きながら受ける機会がある		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の交換研修に参加し、他施設の利点、優れている点を参考にし、伝達講習、書道等を取り入れ、ケアの向上に努めている。管理者は、それぞれの職員の能力、適正、性格を考え、その職員に合った研修に参加できるようにしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設するデイサービスに来てもらい、職員、デイサービス利用者と触れ合って慣れてもらっている。また家族にもホームを見学してもらい、納得してから利用してもらっている。利用後は、週末に外泊するなど徐々に馴れてもらうよう工夫をしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを、職員は共有している。鉄釜でのご飯作り、うどん打ち、季節による花の区別等入居者から教えてもらうことが多く、入居者と一緒にミニ菜園で、トマト、なす、ゴーヤに水やりをして、収穫を行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
したことがある。					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声かけをし、把握に努めている。何を食べたいか、何処へ行きたいかは、いくつか候補を挙げて選択できるように配慮している。ラーメンを食べに行ったり、墓参りに行ったり、本人の希望に沿えるよう援助している。意思表示が困難な場合は、普段のケアから表情を把握したり、家族に聞いたりしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	管理者が介護計画の原案を作り、その入居者の担当職員と確認し合い、足りない部分があれば追加し、家族に確認して仕上げている。家族の希望や意向は、面会時または電話で話し合っており、「車いすにならない生活をさせてほしい」等のニーズは職員に伝えられ、計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、6ヶ月に一度作成している。毎日のケア会議で問題を口頭で出し合い、日常的にはケアを増やしているが、計画の中に見直しの記載がない。骨折後のADL低下や退院後のADL低下等大きな状態の変化がある場合は、見直しをしている。	○	職員で共有しサービス提供できるよう介護計画の見直しを記録に残し、介護計画の遂行状況、効果について評価していき、より良いケアに結びつけていくことを期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的な通院は家族が行っているが、急な受診の際には職員が対応している。本人が希望する理・美容院も利用でき、ホームにも来ていただいている。また、家族が宿泊を希望した場合は、いつでも対応できる。併設デイサービスの交流も行っている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医に受診することができ、往診も定期的に行っている。入居者のかかりつけ医には、ファックスにて日々の状態を報告し連携をとっている。受診後は、家族に報告をしている。医療連携体制をとっているので、訪問看護師が定期的に訪問しており、法人診療所の医師との連携もとられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、ホームでのケアの限界も含めて家族に話をしている。最後までホームで暮らせるよう全員で確認し、重度化した場合は、医師、家族、看護師、職員と話し合って決めている。職員は、入居者の状況を訪問看護師に1日1回報告し連携している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導は、周りの入居者に配慮しながらさりげなく行っている。記録等は事務室に保管されており、持ち出しは禁止している。また入居者の呼び方について、名前で呼ぶ、苗字で呼ぶ、先生と呼ぶ等一人ひとりの希望を聞いて決めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。共有空間にはテーブルやソファーが置かれ、テレビを観る人、カルタをする人、職員とおしゃべりをする人等、入居者は思い思いに過ごしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは決まっているが、毎朝「今日は何が食べたいか」入居者に聞き、献立を決めることが多い。食材を毎日一緒に買い物に行ったり、本人の能力に応じて、食事の下準備や調理、後片付けを協力してもらっている。入居者が収穫した野菜が食材に加わったり、職員は毎食入居者と一緒のテーブルで食べる等楽しむことのできる支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に、毎日入浴できる。最低2日に一回は入浴しており、職員が決めてしまわずに入居者のその日の希望を確認し、一人づつゆっくり入ってもらうよう支援している。また、夜間の入浴も希望があれば可能であり、介護度の高い入居者には職員2名で対応する等柔軟に対応している。入浴後は、水分摂取を支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族からは事前に情報をお聞きし、家庭菜園の手伝い、鉄釜でご飯を炊く、食事の時の「いただきます」の発声、ゆかた作り、歌を唄う、昔のことを話す等、一人ひとりの力を発揮できるように全職員で心がけている。また、夜はプロジェクターで映画上映(昔の映画)を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝の散歩は毎日行い、夕方も希望があれば散歩にでかけている。八百屋にも買い物に出かけ、お店でお茶を飲んでくることもある。個別希望にも柔軟に対応し、時には長距離のドライブのこともある。また、月に1回外食を支援している。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者は、鍵をかけないケアを基本にしており、全職員で確認している。入居者が自由な暮らしができるよう職員の見守りの方法について話し合いを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力による防火訓練は、入居者とともに行い、緊急連絡先、役割分担、避難場所等は決められており、懐中電灯、消火器等はすぐに使用できように用意している。	○	地域の人々の協力が得られるよう協力体制を築き、定期的な訓練を実施し、避難できる訓練を身につけることを期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「1日5回、コップ1杯の水を飲みましょう」を掲げている。水分摂取量は、医師より指示が出ている場合は記録をつけている。また、体重測定を週1回行い体調の把握に努めている。食事は、ミキサー食、刻み食、糖尿病食等入居者の状態に応じて支援している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は、ガラス窓が大きく天井が高く開放的である。台所は対面式キッチンになっていて、食事を作りながら入居者と向き合うことができる。共有空間には、ソファーやテーブルが置かれ、入居者が思い思いに過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものや馴染みの家具を持ち込んでいる。畳の部屋もあり、喜ばれている。部屋の壁には、ホームで作った貼り絵や習字等の作品が貼ってあったり、家族の写真を飾ったりしている。部屋には洗面所もあり、居心地良く過ごせるよう工夫されている。		